S-CLASS
取扱説明書

表記と記載内容について

警　告

重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

注　意！

けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。

知　識

知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。

環　境

環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

環境保護について

ダイムラー・クライスラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をお使いになるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の2/3(許容限度が7,000回転のときは約4,600回転)を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックなどが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

警　告

車両には警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルには危険な状況を回避するための情報をはじめ、車を安全に使用するための情報が記されています。

警告ラベルは絶対にはがさないでください。

環　境

ダイムラー・クライスラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを操作するときの注意

左ハンドル車

セレクターレバーの位置

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーは、センターコンソールではなく、ステアリングの右側にあります。

セレクターレバーの操作方法

方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こすおそれがあります。

また、センターコンソールにセレクターレバーがある車両と比べると、セレクターレバーの操作方法が大きく異なります。詳しくは**（5-5）**をご覧ください。

目次

7. 万一のとき

8. 点検と整備

9. サービスデータ

10. こんなときは

11. さくいん

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務づけられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気がつかないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

燃料の給油

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。
- セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
  - ◇ エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じる
  - ◇ 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なう
  - ◇ 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去する
  - ◇ 作業中は車内に戻らない（帯電するおそれがあります）
  - ◇ キャップの取り外し / 取り付け (4-68) は確実に行ない、火気を近づけないようにする
  - ◇ ガソリンを垂らさないように注意する（塗装面を傷めるおそれがあります）
  - ◇ 気化した燃料を吸い込まないように注意する
  - ◇ 給油作業をする人以外は燃料給油口に近づかない
  - ◇ ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 後席ヘッドレストの後方に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも、高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（2-17）を使用することが法律で義務づけられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席の左右いずれかに装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にしてヘッドレストの高さをもっとも高い位置にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- 後席ドアのチャイルドプルーフロック（4-53）やドアウインドウのセーフティスイッチ（4-54）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフ＊から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをおすすめします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

知　識

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと臭いはなくなります。

最初の1,500kmまでは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の2/3（許容限度が7,000回転のときは約4,600回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- D3、D2、D1 のレンジは山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が1,500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

知　識

- エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。
- **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。
- **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗をエンジンブレーキといいます。低速ギアのときほど効きが強くなります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッション、駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

知　識

エンジンブレーキ：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗をエンジンブレーキといいます。低速ギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いたあとでもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯が消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。警告灯が点灯したまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやシートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやシートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションをPにして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

またアクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になるおそれがあります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意し、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分にとってください。
- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、ホールド機能やクルーズコントロール、ディストロニック＊を使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチック車の運転」もあわせてお読みください(5-15)。

オートマチック車の特性

クリープ現象： エンジンがかかっているとき、シフトポジションがP、N以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン： 走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときにペダルが一定のところで止まることやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

シフトポジションがPになっていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- シフトポジションをD、Rにするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車を、アクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。
- 車が完全に停止する前に、シフトポジションを P にしないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを止めてください。
- 後退したあとは、すぐにシフトポジションを P か N に戻すように心がけてください。R になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込み、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。

  定期交換部品などは純正品だけを使用して、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になるおそれがあります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMANDシステムの操作

COMANDシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限（約1秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

警　告

- 必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整すると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく傾けた状態で走行しないでください。事故のとき、身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

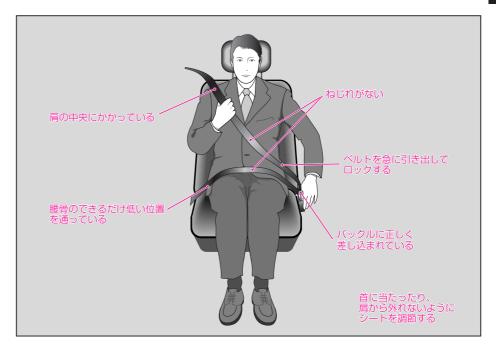
注　意！

- シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。
- 誤ってドアのシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

※車種や仕様によりシートなどの形状は異なります。

シートベルト

シートベルトは、万一の衝突時などに乗員が受けるけがの被害を軽減させる乗員保護装置であり、急ブレーキや衝撃などを感知するとシートベルトをロックして乗員がシートから放り出されないように拘束します。

シートベルトの効果を十分に発揮させるためには、走行前に正しく着用し、正しく取り扱うことが必要です。

※車種や仕様によりシートなどの形状は異なります。

シートベルトの着用

① プレート
② バックル
③ 解除ボタン

シートベルトを着用する

▶ プレート①を持ってシートベルトをゆっくり引き出します。シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認し、プレート①の先端をバックル②に差し込みます。

▶ 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央の部分を通ることを確認します。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート①を持ち、バックルの解除ボタン③を押し、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

前席シートベルトの高さ調整

前席シートベルトの高さは、シートの前後位置に応じて自動的に調整されます。

警　告

- 全員がシートベルトを着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。
  - ◇ バックレストを大きく傾けないでください。
  - ◇ コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
  - ◇ シートに深く腰かけてください。
  - ◇ 肩を通るベルトを脇の下に通さないでください。上体を固定できず、衝突したときなどに頭や首、肋骨や腹部に強い衝撃を受けます。
  - ◇ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にかけると衝突したときなどに腹部が強く圧迫されます。
  - ◇ シートベルトがねじれた状態で着用しないでください。衝撃を分散できなくなります。
  - ◇ 1本のシートベルトを2人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。
  - ◇ シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
  - ◇ 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

注　意！

- シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。
  - ◇ ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない
  - ◇ たばこの火や熱いものを近づけない
  - ◇ バックル部分に異物を入れない
  - ◇ 着用時は胸ポケットにペンや眼鏡などを入れない
  - ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトテンショナー

前席と後席左右のシートベルトにはシートベルトテンショナーが装備されています。

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

ベルトフォースリミッター

前席と後席左右のシートベルトにはベルトフォースリミッターが装備されています。

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。

注　意！

- シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。
- シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。
- バックル部分に作動の妨げになるようなものがないことを確認してください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- 助手席に人が乗っていないときは、シートベルトをバックルに差し込まないでください。事故などのとき、シートベルトテンショナーが作動するおそれがあります。

知　識

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアウインドウやドアを開き換気を行なってください。
- シートベルトテンショナーの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- 助手席に重い荷物などを積んでいると、衝突時などに助手席シートベルトテンショナーが作動することがあります。
- シートベルトテンショナーは、シートベルトがバックルに正しく差し込まれていないと作動しない場合があります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- シートベルトテンショナーが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。
- シートベルトテンショナーは、車が横転したときに作動することがあります。
- 未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

また、運転席および助手席の乗員がシートベルトを着用していないときには、シートベルト警告灯が点灯し続けます。

点灯しないときは警告灯の異常です。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンスイッチを2の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

運転席または助手席の乗員が、シートベルトを着用しないまま走行を開始し速度が約25km/h以上になるか、走行中にシートベルトを外したときは、シートベルト警告灯が点滅し断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約60秒間走行するか、または車を停止したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約25km/h以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

知　識

助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

PRE-SAFE（プレセーフ）

プレセーフは、緊急ブレーキや横滑りなどにより車が不安定な状態にあることを感知すると、前席シートベルトを引き込むとともに、助手席や左右後席＊を安全なシート位置に移動したり、ドアウインドウとスライディングルーフ＊を閉じることにより、万一の衝突や横転に備えて乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE（プレセーフ）の作動

プレセーフは、約30km/h以上で走行しているときに作動します。

プレセーフは以下のように作動します。

◇ 衝突に備え、プレセーフ用の電動式シートベルトテンショナーが前席シートベルトを引き込み、シートベルトテンショナーの効果を高めます。

◇ 助手席や左右後席＊が、エアバッグの作動に対し不適切な位置にある場合は、シートを適正な位置に自動的に調整します。

◇ 車の横滑りを感知すると、万一の横転時に乗員が車外に放出されることを防ぐため、ドアウインドウとスライディングルーフ＊が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

◇ マルチコントロールシートバック＊のサイドクッションの空気圧を高くします。

知　識

- 車が不安定な状態から脱すると、電動式シートベルトテンショナーの張力が緩みます。また、マルチコントロールシートバック＊のサイドクッションの空気圧が元の設定に戻ります。
- 電動式シートベルトテンショナーが解除されてもシートベルトが緩まないときは、シートの前後位置やバックレストの角度を少し後方に移動させると、シートベルトが緩みます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

SRSエアバッグ

エアバッグは、シートベルトの効果を補助する装置です。

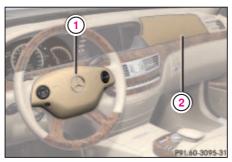
エアバッグの効果を発揮させるためには、シートベルトの正しい着用が条件になります。

衝突時のように車が強い衝撃を受けると、収納されているエアバッグが瞬時にふくらんで乗員の前面や周囲にエアクッションを作り、乗員への衝撃を分散・軽減します。

衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグが異なります。

知　識

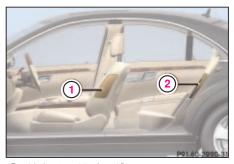
SRSはSupplemental Restraint System（乗員保護補助装置）の略です。

運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車

① 運転席エアバッグ
　ステアリングパッド部
② 助手席エアバッグ
　助手席ダッシュボードパネル部

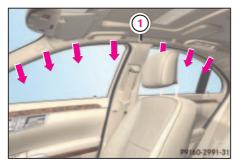
前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席エアバッグは作動しません。

前席 / 後席サイドバッグ

① 前席サイドバッグ
　運転席 / 助手席のバックレスト側面
② 後席サイドバッグ
　後席の左右側面

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、上体への衝撃を軽減します。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席側の前席サイドバッグは作動しません。

ウインドウバッグ

① ウインドウバッグ
前席ピラーから後席ピラー間のルーフライニング部

横方向からの強い衝撃を受けると、乗員の有無に関わらず衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部などへの衝撃を軽減します。

また、車が横転したときもウインドウバッグは作動します。

エアバッグシステム警告灯

エンジンスイッチを**1**の位置にすると数秒間点灯します。また、**2**の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないとき、走行中に点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席検知機能 / チャイルドセーフティシート検知システム＊の異常です。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

警　告

- エンジン始動後もエアバッグシステム警告灯が点灯するときは、事故などの衝撃があってもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないことがあります。また、不意に作動することもあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

警　告

- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- アシストグリップやコートフックに固い物や鋭利な物をかけないでください。
- ステアリングのパッド部やエアバッグ収納部に、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼り付けたり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
- 前席シートにカバーをするときは、必ず前席サイドバッグ用のスリットが入った専用のシートカバーを使用してください。市販のカバーを使用すると、前席サイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- 膝の上に物を抱えるなど、エアバッグと乗員との間に物を置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。

注　意！

- エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。
- エアバッグの作動後はエアバッグや関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグが作動した後は、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

知　識

- 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、エアバッグは作動しないことがあります。
- 助手席シートに重い荷物などを積んでいると、衝突時などに助手席エアバッグや助手席側の前席サイドバッグが作動することがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- エアバッグが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。
- エアバッグが作動すると非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を解除するときは、非常点滅灯スイッチを押します。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアウインドウやドアを開き換気を行なってください。
- エアバッグの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- ボディの部位によって受けた衝撃を吸収する度合いが異なるので、損傷の大きさとエアバッグの作動は必ずしも一致しません。
- 未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

ウインドウバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

チャイルドセーフティシート

シートベルトは身長150cm以上の人が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや取り付け方法については、製品に添付されている「取扱説明書」をお読みください。

注　意 ！

チャイルドセーフティシートを装着するときは、必ずシートのバックレストを起こしてください。

警　告

- 6歳未満の子供を乗せるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務づけられています。
- 6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長150cm未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは、後席に装着してください。

  電動シートバック装備車に装着するときは、シートバックをもっとも起きた状態にして、シートクッション前部の高さをもっとも高い位置にしてください。
- やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず前向きに装着してください。そして助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストの高さをもっとも高い位置にしてください。

- 助手席には、後向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらずチャイルドセーフティシートを後向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  この危険を知らせるラベルが、サンバイザーに貼付されています。

- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー・クライスラー社の純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に装着すると、助手席エアバッグの作動を解除する、センサー付きシート(ベビーセーフ、デュオ、キッド)があります。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフ	10kg以下	生後9ヵ月位まで
デュオ	9～18kg	生後8ヵ月～4歳位
キッド	15～36kg	4歳～12歳位

※チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム＊

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

注　意！

助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

警　告

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。必ず以下の点に注意してください。

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートであっても、必ず後席に装着してください。
- やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず前向きに装着してください。そして助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストの高さをもっとも高い位置にしてください。
- 助手席には、後向きに装着するタイプの純正チャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず純正チャイルドセーフティシートを後向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

知　識

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しても、サイドバッグやウインドウバッグ、シートベルトテンショナーの機能は解除されません。
- 純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

助手席エアバッグオフ表示灯＊

左ハンドル車

① 表示灯

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着しているときにエンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯し、助手席エアバッグの機能が解除されます。

点灯しないときは、チャイルドセーフティシート検知システムが故障しています。助手席でチャイルドセーフティシートを使用せずに、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

注　意！

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着していないときは、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、システムの故障です。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

警　告

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の点に注意して正しく使用してください。

チャイルドセーフティシート検知システム装備車の場合

- 助手席に装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。必ず後席に装着してください。また、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

  電動シートバック装備車に装着するときは、シートバックをもっとも起きた状態にして、シートクッション前部の高さをもっとも高い位置にしてください。

  ◇ やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず前向きに装着してください。そして助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストの高さをもっとも高い位置にしてください。

  ◇ 後向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、絶対に助手席に装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

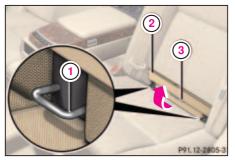
チャイルドセーフティシート検知システム非装備車の場合

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されていません。
- センサー付き純正チャイルドセーフティシートであっても、必ず後席に装着してください。

  電動シートバック装備車に装着するときは、シートバックをもっとも起きた状態にして、シートクッション前部の高さをもっとも高い位置にしてください。

  ◇ やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず前向きに装着してください。そして助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストの高さをもっとも高い位置にしてください。

  ◇ 後向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、絶対に助手席に装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート固定装置

① 固定リング
② カバー
③ カバー固定プレート

後席シートの左右に、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート用の固定リング①を装備しています。

チャイルドセーフティシートを固定装置に装着する

▶ カバー②を上方に開きます。

▶ カバー②の裏側にあるカバー固定プレート③を90°まわして、カバーを固定します。

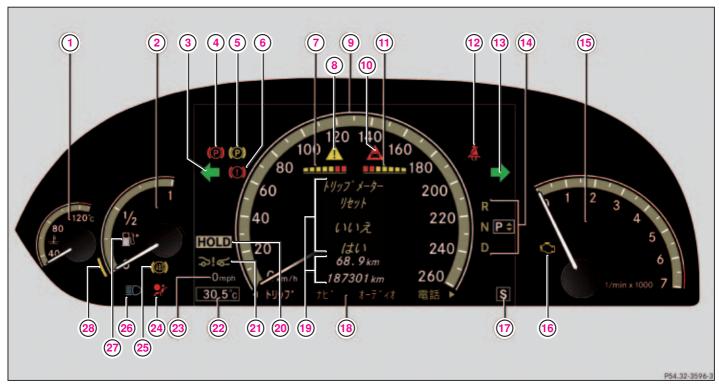
▶ 固定リング①にチャイルドセーフティシートを装着します。

注　意！

チャイルドセーフティシートを装着するときは、後席中央のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

警　告

- この固定リングは、体重22kg以下の子供を乗せるときに使用してください。
- チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定リングに装着してください。装着のしかたを誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートや固定リングが事故で損傷したり強い衝撃を受けた場合は、新品に交換してください。

メーターパネル

メーターパネル

※装備、仕様の違いにより、スイッチなどの位置や形状が実際の車両と異なることがあります。

	名称	ページ
①	エンジン冷却水温度計	3-5
②	燃料計	3-5
③	方向指示表示灯	3-5
④	パーキングブレーキ表示灯	3-5
⑤	パーキングブレーキ警告灯	3-5
⑥	ブレーキ警告灯	5-38
⑦	パークトロニックインジケーター/作動表示灯＊	5-82
⑧	ESP表示灯	5-45
⑨	スピードメーター	3-6
⑩	車間距離警告灯＊	5-68

	名称	ページ
⑪	パークトロニックインジケーター/作動表示灯＊	5-82
⑫	シートベルト警告灯	3-7
⑬	方向指示表示灯	3-5
⑭	シフトポジション表示	5-7
⑮	タコメーター	3-7
⑯	エンジン警告灯	3-7
⑰	走行モード表示	5-8
⑱	マルチファンクションディスプレイのメインメニュー表示項目	3-24
⑲	マルチファンクションディスプレイ	3-22
⑳	ホールド機能表示灯	5-40

	名称	ページ
㉑	車間距離警告音表示灯＊	5-69
㉒	外気温度表示	3-8
㉓	サブスピードメーター	3-41
㉔	エアバッグシステム警告灯	2-11
㉕	ABS警告灯	5-43
㉖	ハイビーム表示灯	3-9
㉗	燃料給油口位置表示	3-9
㉘	燃料残量警告灯	3-9

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

メーターパネルの点灯

メーターパネルは以下のときに点灯します。

- エンジンスイッチを1か2の位置にしたとき

  0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて約30秒後に消灯します。

- 車外ランプが点灯したとき

  車外ランプが消灯して約30秒後に消灯します。

また、以下のときに点灯して約30秒後に消灯します。

- 車を解錠したとき
- 運転席ドアを開いたとき
- 開いている運転席ドアを閉じたとき
- パーキングブレーキスイッチを押したとき

注　意！

メーターパネルが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、警告表示などの表示ができなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、すみやかに指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの照度を調整する

左ハンドル車

右ハンドル車

① メーターパネル照度調整ノブ

明るくする

▶ ノブ①を時計回りにまわします。

暗くする

▶ ノブ①を反時計回りにまわします。

知　識

周囲が明るいときは、メーターパネルの照度は自動的に調整されます。手動で照度を調整することはできません。

① エンジン冷却水温度計

エンジンの冷却水温度を表示します。

知　識

- 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約120℃まではオーバーヒートは起こしません。
- 暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ(10-20)が表示されない限り、問題ありません。

② 燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンク容量は約90リットルです。

注　意　!

給油のときはエンジンを停止してください。

③⑬ 方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させたときに点滅します。

詳しくは(5-28、5-29)をご覧ください。

④ パーキングブレーキ表示灯

パーキングブレーキを効かせているときに点灯します。

パーキングブレーキに異常があるときはパーキングブレーキを解除していても点灯したり、点滅します。

⑤ パーキングブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

パーキングブレーキに異常があるときは、点灯または点滅します。

詳しくは(10-15～18)をご覧ください。

⑥ ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

また以下のようなときに点灯します。

- ブレーキ液のレベルが低下しているとき
- ブレーキ力を前後に配分するシステムに異常があるとき

⑦⑪ パークトロニックインジケーター / 作動表示灯＊

パークトロニックが作動しているときに、車両と障害物との距離を表示します。

詳しくは(5-82)をご覧ください。

⑧ ESP表示灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し(点灯しないときは表示灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

走行中は以下のときに点灯 / 点滅します。

- ESPの機能を解除したときに点灯します。
- ESPが作動したときに点滅します。

エンジンスイッチを2の位置にしても点灯しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは(5-45)をご覧ください。

知　識

ESPの機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP表示灯が点滅しますがESPは作動しません。ただし、このときにブレーキを効かせると、ESPは自動的に作動します。

⑨ スピードメーター

車の走行速度を表示します。

⑩ 車間距離警告灯＊

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

ディストロニック装備車は、先行車との車間距離が短くなると点灯します。

ディストロニック非装備車は、警告灯としての機能はありません。

エンジンスイッチを2の位置にしても点灯しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは(5-68)をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

⑫ シートベルト警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、前席の乗員がシートベルトを着用しているときは、エンジン始動後に消灯します。

エンジンスイッチを**2**の位置にしても点灯しないときは警告灯に異常があります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは**(2-8)**をご覧ください。

⑭ シフトポジション表示

オートマチックトランスミッションのシフトポジションを表示します**(5-7)**。

⑮ タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

⑯ エンジン警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

走行中に点灯したときはエンジンの制御システムに異常があります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

- エンジン警告灯が点灯するとエンジンがエマージェンシーモードになることがあります。エマージェンシーモードではエンジンの回転数が制限されアクセルペダルを踏んでもエンジンの回転が上昇しなくなります。この場合、低速で走行できることもありますが、ただちに安全な場所に停車し指定サービス工場に連絡してください。
- 燃料切れによりエンジン警告灯が点灯したときは、燃料を補給した後にエンジン始動を3〜4回繰り返すと、エマージェンシーモードが解除されます。

⑰ 走行モード表示

オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します(5-8)。

⑱ マルチファンクションディスプレイのメインメニュー表示項目

マルチファンクションディスプレイの表示に関連したメニューが表示されます。

選択されているメニューは白色に表示されます。

詳しくは(3-25)をご覧ください。

⑲ マルチファンクションディスプレイ

車両に関連した各種情報や警告メッセージなどを表示します。

詳しくは(3-22〜)をご覧ください。

⑳ ホールド機能表示灯

ホールド機能が作動しているときに点灯します。

ホールド機能表示灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、ホールド機能に異常があります。

詳しくは(5-40)をご覧ください。

㉑ 車間距離警告音表示灯＊

ディストロニック＊の車間距離警告音を設定すると点灯し、解除すると消灯します。

詳しくは(5-69)をご覧ください。

㉒ 外気温度表示

外気温度を表示します。

警　告

温度表示が0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

注　意　!

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

知　識

温度をフロントバンパー部で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

㉓ サブスピードメーター

車の走行速度をマイルで表示することができます。

詳しくは(3-41)をご覧ください。

知　識

1mphは約1.6km/hです。

㉔ エアバッグシステム警告灯

エンジンスイッチを1の位置にすると数秒間点灯します。また、エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときや点灯後消灯しないとき、エンジン始動後に点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席の乗員検知機能、チャイルドセーフティシート検知システム＊の故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは(2-11)をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

㉕ ABS警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

エンジンスイッチを2の位置にしても点灯しないときや、エンジン始動後に点灯したときはABSに異常があります。通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、ABS、ESP、BAS、ETSは作動しません。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは(5-43)をご覧ください。

㉖ ハイビーム表示灯

ヘッドランプを上向きで点灯させたとき、またはパッシングをしたときに点灯します。

㉗ 燃料給油口位置表示

燃料給油口の位置を表示しています。

燃料給油口の位置は、車体後部右側にあります。

㉘ 燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約11リットルです。

知　識

走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

COMANDシステム

COMANDシステムは、ナビゲーションやオーディオ、エアコンディショナーや車両設定などの各機能を一体化したシステムです。

安全のために

警　告

- 走行中にCOMANDシステムを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。
- 車両が約50km/hで走行しているときは、1秒間に約14mも走行してしまうことを常に念頭において走行してください。
- COMANDシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限（約1秒以内）にとどめてください。

知　識

安全のため、COMANDシステムには、走行中に操作できない機能や表示されない項目があります。

COMANDシステムの機能

COMANDシステムで操作できる機能は以下のように大別できます。

それらの機能は、COMANDディスプレイのアプリケーションエリア（**3-16**）およびエアコンディショナーエリアを選択することで操作できます。

また、ランバーサポートスイッチ / マルチコントロールシートバックスイッチを押すことで、前席のランバーサポート（**4-27**） / マルチコントロールシートバック＊（**4-28**）の設定が行なえます。

	機能	ページ
①	ナビ（ナビゲーション）	別冊「COMANDシステム取扱説明書」をご覧ください。
②	オーディオ	
③	電話/情報	
④	TV/映像	
⑤	車両	
	• リアウインドウ・ブラインドの開閉	6-50
	• ドアミラー設定＊	4-13、4-93
	• イージーエントリー機能＊	4-46
	• 車外ランプ残照機能	5-25
	• ルームランプ残照機能	6-32
	• アンビエントランプ照度調整	6-35
	• ロケイターライティング	4-15
	• 車速感応ドアロック	4-51
	• けん引防止警報機能	4-71
	• トランクリッドの開口角度設定＊	4-60
⑥	エアコンディショナー	6-4
ランバーサポート（前席）		4-27
マルチコントロールシートバック（前席）＊		4-28

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

COMANDシステムの構成

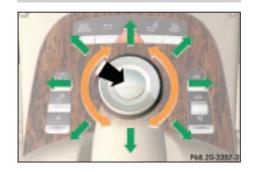
COMANDシステムは、

- COMANDコントローラー
- ファンクションスイッチ
- COMANDディスプレイ

から構成されています。

知　識

- 電話の発信操作をするためのキーパッドが装備されています。詳しくは、別冊「COMANDシステム取扱説明書」をご覧ください。
- オーディオや電話などの操作の一部は、ステアリングスイッチで行なうことができます。詳しくは、(3-23)か、別冊「COMANDシステム取扱説明書」をご覧ください。

COMANDコントローラー

知　識

それ以上項目を選択できないときなどは、コントローラーの作動が電気的にロックされ、まわしたり、スライドできなくなります。

COMANDコントローラーを操作することにより、COMANDシステムの様々な機能を選択したり、設定することができます。

操作の方向	本書中の表記
軽く押す 押して保持する	
まわす	
上下にスライドする スライドして保持する	
左右にスライドする スライドして保持する	
上下左右斜めにスライドする スライドして保持する	

ファンクションスイッチ

	スイッチ名称
①	✱ ユーザー定義スイッチ
②	DISC RADIO オーディオスイッチ
③	⮌ リターンスイッチ
④	ランバーサポートスイッチ / マルチコントロールシートバック＊スイッチ
⑤	TEL NAVI 電話/情報、ナビゲーションスイッチ
⑥	ON ON / OFFスイッチ
⑦	音量調整ダイヤル
⑧	ミュートスイッチ

① ✱ ユーザー定義スイッチ

使用頻度の高い以下の機能をこのスイッチに登録できます。

- リアウインドウ・ブラインドの開閉（6-50）
- COMANDディスプレイのON / OFF
- けん引防止警報機能の解除 / 設定（4-71）

以下の機能についてもこのスイッチに登録できます。詳しくは、別冊「COMANDシステム取扱説明書」をご覧ください。

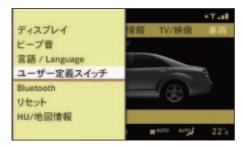
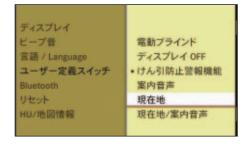
- ルート案内時の音声案内のON / OFF（ナビゲーション）
- 地図表示の現在地への復帰（ナビゲーション）
- ルート案内時の音声案内のON / OFFと現在地への復帰（ナビゲーション）

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ユーザー定義スイッチに機能を登録する

▶ アプリケーションエリアで **"車両"** を選択して ◎ ・ ←◎→ 、コントローラーを押します ◎ 。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで **"システム設定"** を選択して、コントローラーを押します ◎ 。

▶ **"ユーザー定義スイッチ"** を選択して ◎ ・ ↑◎↓、コントローラーを押します ◎ 。

現在定義されている機能の左側には、"•" が表示されています。

▶ 定義する機能を選択して ◎ ・ ↑◎↓ 、コントローラーを押します ◎ 。

② DISC RADIO オーディオスイッチ

COMANDシステムをラジオやCDなどのオーディオモードにするときに押します。

③ リターンスイッチ

1つ前の画面に戻るときに押します。

④ ランバーサポートスイッチ / マルチコントロールシートバック＊スイッチ

ランバーサポート / マルチコントロールシートバック＊を調整するときに押します。

COMANDディスプレイがランバーサポート / マルチコントロールシートバック＊の調整画面になります。

⑤ TEL NAVI 電話 / 情報、ナビゲーションスイッチ

COMANDシステムを電話やEメール、ナビゲーションモードなどにするときに押します。

⑥ ON ON / OFFスイッチ

COMANDシステムをON / OFFするときに押します。

⑦ 音量調整ダイヤル

オーディオやナビゲーションの音声案内の音量を調整します。

音量を大きくする

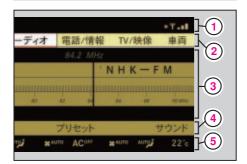
▶ 音量調整ダイヤルを前方にまわします。

音量を小さくする

▶ 音量調整ダイヤルを後方にまわします。

⑧ ミュートスイッチ

オーディオやナビゲーションの音声案内の音量を消音するときに押します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

COMANDディスプレイ

	名称
①	ステータスエリア
②	アプリケーションエリア
③	メインエリア
④	サブメニューエリア
⑤	エアコンディショナーエリア

COMANDディスプレイの各エリア

COMANDディスプレイは、選択した機能とそれに関連するメニューを表示します。

画面内は、上段から下段にかけて5つのエリアに分かれています。

選択されているエリアは明るく表示されます。

① ステータスエリア

接続されている携帯電話の電波受信状況や、ミュート（消音）にしたときのインジケーターなどが表示されます。

② アプリケーションエリア

COMANDシステムの各アプリケーションが表示されます。このエリアから、各アプリケーションを選択します。

③ メインエリア

選択されたアプリケーションに応じた画面が表示されます。

また、アプリケーションエリアやサブメニューエリアからのポップアップメニューが表示されます。

④ サブメニューエリア

選択されているアプリケーションに応じた設定項目が表示されます。

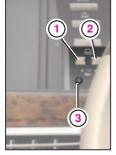
⑤ エアコンディショナーエリア

エアコンディショナーの作動状況が表示されます。

各項目を選択することにより、エアコンディショナーの設定を行ないます。

知　識

COMANDディスプレイをOFFにしても、エアコンディショナーエリア⑤は常に表示されます。

COMANDディスプレイの角度 / 照度調整

左ハンドル車

右ハンドル車

① 角度調整スイッチ（左向き）
② 角度調整スイッチ（右向き）
③ 照度調整ノブ

COMANDディスプレイの角度を左向きにする

▶ 角度調整スイッチ（左向き）①を押します。

COMANDディスプレイが右向きのときは、角度調整スイッチ（左向き）①を2度押します。

COMANDディスプレイの角度を右向きにする

▶ 角度調整スイッチ（右向き）②を押します。

COMANDディスプレイが左向きのときは、角度調整スイッチ（右向き）②を2度押します。

COMANDディスプレイの角度を中央にする

▶ COMANDディスプレイが左向きのときは、角度調整スイッチ（右向き）②を押します。

COMANDディスプレイが右向きのときは、角度調整スイッチ（左向き）①を押します。

COMANDディスプレイの照度を明るくする

▶ 照度調整ノブ③を時計回りにまわします。

COMANDディスプレイの照度を暗くする

▶ 照度調整ノブ③を反時計回りにまわします。

COMANDディスプレイの表示言語設定

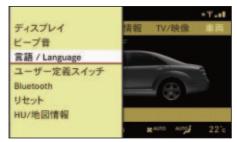
COMANDディスプレイの表示言語を、日本語または英語に設定できます。

知　識

COMANDシステムの言語設定に連動して、マルチファンクションディスプレイの表示言語も変更されます。

▶ アプリケーションエリアで **"車両"** を選択して ◎ ・ ◎ 、コントローラーを押します ◎ 。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで **"システム設定"** を選択して、コントローラーを押します ◎ 。

▶ **"言語 / Language"** を選択して ◎ ・ ◎ 、コントローラーを押します ◎ 。

現在選択されている表示言語の左側には、" • " が表示されています。

表示言語を日本語にする

▶ **"日本語"** を選択して ◎ ・ ◎ 、コントローラーを押します ◎ 。

表示言語を英語にする

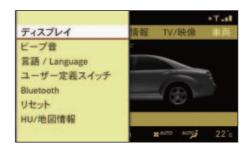
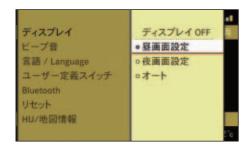
▶ **"English"** を選択して ◎ ・ ◎ 、コントローラーを押します ◎ 。

COMANDディスプレイの色調設定

COMANDディスプレイの色調を、昼画面や夜画面にできます。また、周囲の明るさに連動して、自動的に昼画面と夜画面に切り替えることができます。

▶ アプリケーションエリアで **"車両"** を選択して ・ 、コントローラーを押します 。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで **"システム設定"** を選択して、コントローラーを押します 。

▶ **"ディスプレイ"** を選択して ・ 、コントローラーを押します 。

現在選択されている色調設定の左側の "○" の中には、"•" が表示されています。

昼画面に設定する

▶ **"昼画面設定"** を選択して ・ 、コントローラーを押します 。

夜画面に設定する

▶ **"夜画面設定"** を選択して ・ 、コントローラーを押します 。

周囲の明るさに連動させる

▶ **"オート"** を選択して ・ 、コントローラーを押します 。

知　識

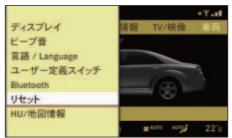
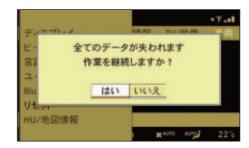
"ディスプレイ OFF" を選択すると、COMANDディスプレイがOFFになります。

COMANDシステムのリセット

COMANDシステムの設定内容を、工場出荷時の状態に戻すことができます。

▶ アプリケーションエリアで **"車両"** を選択して ◎ ・ ◎ 、コントローラーを押します ◎ 。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで **"システム設定"** を選択して、コントローラーを押します ◎ 。

▶ **"リセット"** を選択して ◎ ・ ◎ 、コントローラーを押します ◎ 。

▶ **"はい"** を選択して ◎ ・ ◎ 、コントローラーを押します ◎ 。

この作業を実行すると、COMANDシステムの設定内容が工場出荷時の状態に戻るとともに、以下のデータが削除されます。

- ナビゲーションの設定
- ラジオやテレビのプリセット内容
- ミュージックレジスターのデータ
- アドレス帳のデータ
- Eメールのデータ
- インターネットのデータ

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイは、車両に関する各種情報や故障／警告メッセージなどを表示するシステムです。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに表示させせることができます。

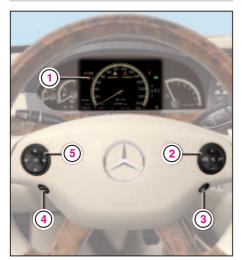
警　告

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

ディスプレイ表示

① マルチファンクションディスプレイのメインメニュー
② マルチファンクションディスプレイの表示エリア

マルチファンクションディスプレイはスピードメーターの内側にあります。

メインメニュー①に応じた項目が、表示エリア②に表示されます。

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイの操作は、マルチファンクションステアリングで行ないます。

マルチファンクションステアリングでは、COMANDシステム（**3-10**）の一部の操作を行なうこともできます。

詳しくは別冊「COMANDシステム取扱説明書」をお読みください。

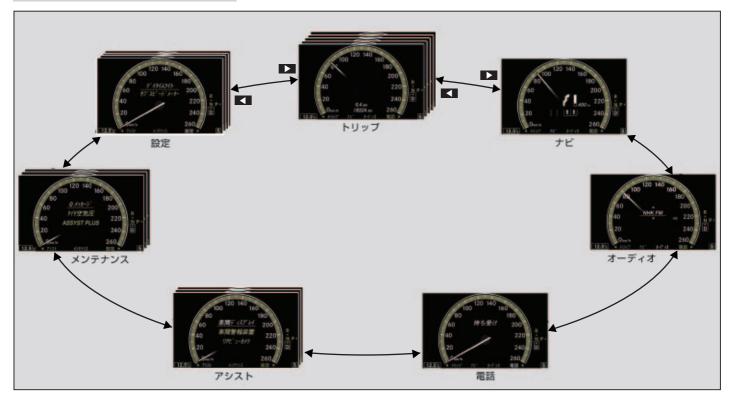
	名　称
①	ディスプレイ
②	電話 / 音量スイッチ 電話を受信する 電話を切断する ＋ 音量を上げる − 音量を下げる 消音する
③	音声認識ボタン
④	リターンスイッチ / 音声認識解除ボタン
⑤	スクロールスイッチ ▲ 上にスクロールする ▼ 下にスクロールする ▶ 右に動かす ◀ 左に動かす OK 確定する

マルチファンクションディスプレイの操作上の特徴は以下の通りです。

- マルチファンクションディスプレイには、メインメニューが7つあります（**3-25**）。
- メインメニューを選択するときは、スクロールスイッチ⑤の ◀ または ▶ を押します。

  メインメニューのタイトルがスクロールし、選択したメインメニューが明るくなります。
- マルチファンクションディスプレイの基本画面はオドメーター / トリップメーター表示です。基本画面に戻すときは、リターンスイッチ④ を1回または数回押します。

マルチファンクションディスプレイ

メインメニュー

※マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージや表記などは、仕様・装備により異なることがあります。また、予告なく変更される場合があります。

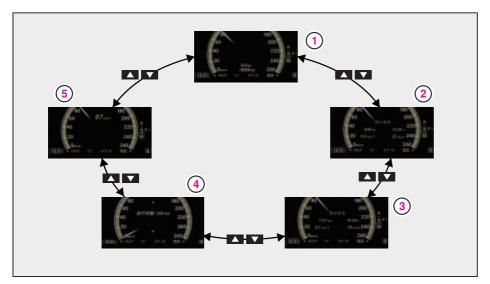
各メインメニューの表示項目

各メインメニューで表示 / 設定できる項目は以下の通りです。

メニュー	表示項目
トリップ **(3-26)**	基本画面（オドメーター / トリップメーター）、ショートトリップメーター、ロングトリップメーター、走行可能距離、走行速度表示
ナビ **(3-30)**	方位表示、ルート案内表示
オーディオ **(3-30)**	ラジオ局の選局、CD / DVDオーディオ / MP3 / ミュージックレジスターの選曲、 テレビ局の選局、DVDビデオのチャプター / トラック番号の選択
電話 **(3-32)**	発着信番号の表示、電話帳の表示
アシスト **(3-34)**	車間ディスプレイの設定＊、車間警報装置の設定＊、パーキングアシストリアビューカメラの設定、パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイド設定
メンテナンス **(3-36)**	故障メッセージの表示、タイヤ空気圧警告システムの表示、 メンテナンスインジケーターの表示
設定 **(3-39)**	ヘッドランプ点灯モードの設定、サブスピードメーターの設定

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トリップメニュー

走行に関する車両情報を表示します。

①	基本画面
②	ショートトリップメーター画面
③	ロングトリップメーター画面
④	走行可能距離画面
⑤	走行速度表示画面

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

基本画面 (オドメーター / トリップメーター)

① オドメーター
② トリップメーター

オドメーター①はこれまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーター②はリセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする

- ▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"トリップ" を選択します。
- ▶ ▼ または ▲ を押して、基本画面を表示させます。
- ▶ OK を押します。

  画面に "ﾄﾘｯﾌﾟﾒｰﾀｰﾘｾｯﾄ いいえ はい" と表示されます。
- ▶ ▼ を押して "はい" を選択し、OK を押します。

  トリップメーターが0.0kmにリセットされます。

知　識

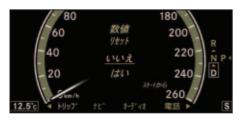
トリップメーターは、ステアリングスイッチの ⮌ を長押しすることでもリセットできます。ただし、リセットの確認画面は表示されません。

ショートトリップメーター画面

① スタートからの走行距離（km）
② スタートからの経過時間（h）
③ スタートからの平均速度（km/h）
④ スタートからの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点として情報を表示します（"ｽﾀｰﾄ から"）。

- ▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"トリップ"を選択します。
- ▶ ▼ または ▲ を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

ショートトリップメーターをリセットする

▶ ショートトリップメーター画面を表示しているときに、マルチファンクションステアリングの OK を押します。

画面に"数値ﾘｾｯﾄ いいえ はい"と表示されます。

▶ ▼ を押して "はい" を選択し、OK を押します。

ショートトリップメーターがリセットされます。

知　識

- エンジンスイッチを0の位置にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約4時間経過すると、ショートトリップメーターは自動的にリセットされます。
- 約4時間経過する前に、再度エンジンスイッチを1か2の位置にすると、ショートトリップメーターは、999時間経過後、または9,999km走行後に自動的にリセットされます。

ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーターは、トリップメーターをリセットしたときを起点として情報を表示します("ﾘｾｯﾄ から")。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"トリップ"を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ロングトリップメーターをリセットする

▶ ロングトリップメーター画面を表示しているときに、マルチファンクションステアリングの OK を押します。

画面に "数値リセット いいえ はい" と表示されます。

▶ ▼ を押して"はい"を選択し、OK を押します。

ロングトリップメーターがリセットされます。

知　識

リセット後、ロングトリップメーターは、9,999時間経過後、または99,999km走行後に自動的にリセットされます。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに表示することができます。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"トリップ"を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、走行可能距離画面を表示させます。

走行速度表示画面

① 走行速度表示

走行中の速度を表示します。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"トリップ"を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、走行速度表示画面を表示させます。

ナビメニュー

① 進行方向の方位

COMANDシステムのナビゲーション機能で目的地を設定したときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示することができます。

ルート案内を行なっていないときは、画面に進行方向の方位が表示されます。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"ナビ" を選択します。

ナビゲーション機能の詳細については、別冊「COMANDシステム取扱説明書」をお読みください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

オーディオメニュー

ラジオ局の選局、CDプレーヤー / DVDオーディオ＊ / MP3 / ミュージックレジスターの選曲、DVDビデオのチャプター/トラック番号の選択、テレビ局の選局などが行なえます。

オーディオ機能の詳細については、別冊「COMANDシステム取扱説明書」をお読みください。

ラジオ局を選局する

① 放送局名 / 放送局の周波数
② FM / AM表示

▶ COMANDシステムで **"FM / AM"** のいずれかを選択します。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"オーディオ"を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、放送局名または放送局の周波数を選択します。

▶ ＋ または − を押して、音量を調節します。

知　識

ラジオ局の選局は、COMANDシステムで **"FM / AM"** のいずれかを選択しているときに可能です。

音楽を選曲する

① トラック番号

- ▶ COMANDシステムで **"CDプレーヤー / DVDオーディオ＊ / MP3 / ミュージックレジスター"** のいずれかを選択します **(別冊)**。
- ▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"オーディオ" を選択します。
- ▶ ▼ または ▲ を押して、トラック番号を選択します。
- ▶ ＋ または − を押して、音量を調節します。

知　識

再生中のメディアに文字データが含まれている場合は、トラック番号に加え曲名なども表示されます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

DVDビデオのシーンを選択する

① チャプター / トラック番号

- ▶ COMANDシステムで **"DVDビデオ"** を選択します **(別冊)**。
- ▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"オーディオ" を選択します。
- ▶ ▼ または ▲ を押して、チャプター / トラック番号を選択します。
- ▶ ＋ または − を押して、音量を調節します。

テレビ局を選局する

① チャンネル名

- ▶ COMANDシステムで **"テレビ"** を選択します **(別冊)**。
- ▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"オーディオ" を選択します。
- ▶ ▼ または ▲ を押して、チャンネル名を選択します。
- ▶ ＋ または − を押して、音量を調節します。

電話メニュー

携帯電話をCOMANDシステムに接続することにより、ハンズフリー通話を行なうことができます。

待機状態にする

マルチファンクションディスプレイに電話メニューを表示しているときは、電話機能に関する情報を表示することができます。

▶ 携帯電話をCOMANDシステムに接続します **(別冊)**。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"電話"を選択します。

画面に"待ち受け"と表示されます。

電話メニューをオフにする

携帯電話をケーブルで接続している場合：

▶ COMANDシステムのアプリケーションエリアで **"電話 / 情報"** を選択して ◎ ・ ◎ 、コントローラーを押します ◎ 。

電話 / 情報メニューが表示されます。

▶ **"電話OFF"** を選択して ◎ ・ ◎ 、コントローラーを押します ◎ 。

携帯電話の電源がOFFになり、画面に "ｵﾌ" と表示されます。

携帯電話をBluetooth接続している場合：

▶ ファンクションスイッチのON / OFFスイッチ **(3-15)** を押します。

画面に "ｽﾀﾝﾊﾞｲ" と表示され、COMANDシステムの電源と電話メニューがオフになります。

着信した電話を受ける

▶ 着信呼び出し中にマルチファンクションステアリングの を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に を押します。

電話帳から電話をかける

COMANDシステムに登録した電話帳データを呼び出して、電話をかけることができます。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"電話"を選択します。

▶ ▲ 、▼ 、OK のいずれかを押して、電話帳データを選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、電話帳データを検索します。

▶ 目的の電話帳データを選択したら、 または OK を押します。

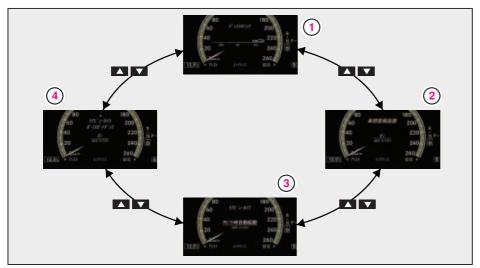
電話が発信されます。

知　識

- ▼ または ▲ を約2秒以上押し続けると、電話帳データのスクロールが速くなります。
- ▼ または ▲ を約4秒以上押し続けると、電話帳データが4人分づつ表示されます。

電話機能の詳細については、別冊「COMANDシステム取扱説明書」をお読みください。

アシストメニュー

運転装置に関する設定を行なうことができます。

①	車間ディスプレイ設定画面＊
②	車間距離警告音設定画面＊
③	パーキングアシストリアビューカメラの起動設定画面
④	パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイド設定画面

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

車間ディスプレイ設定画面＊

マルチファンクションディスプレイに車間ディスプレイ＊を表示させる設定をすることができます。

詳しくは(**5-60**)をご覧ください。

車間距離警告音設定画面＊

車間距離警告音＊を設定することができます。

詳しくは**(5-69)**をご覧ください。

パーキングアシストリアビューカメラの起動設定画面

シフトポジションをRにしたとき、パーキングアシストリアビューカメラがCOMANDディスプレイに自動的に表示される機能の設定をすることができます。

詳しくは**(5-95)**をご覧ください。

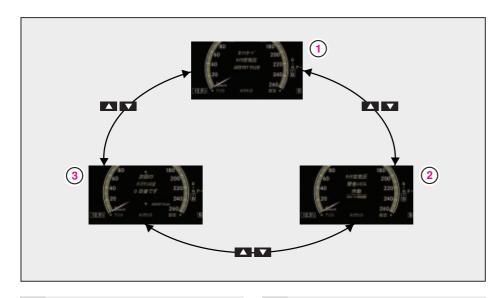
パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイド設定画面

パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイドをオフにする設定をすることができます。

詳しくは**(5-96)**をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

メンテナンスメニュー

故障の有無や点検整備時期などの車両の状態を確認することができます。

① 故障表示画面

② タイヤ空気圧警告システム画面

③ メンテナンスインジケーター画面

故障表示画面

車両に故障や異常が起きたとき、車の状況がメッセージで表示されます。

注　意 ！

- 表示される故障や不具合は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や不具合の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
- 表示される故障 / 警告メッセージについては、(10-2～)をご覧ください。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"メンテナンス"を選択します。

画面に "0 ﾒｯｾｰｼﾞ" と表示されているときは、故障はありません。

知 識

画面に "0ﾒｯｾｰｼﾞ" と表示されているときに OK を押すと、画面に "ﾒｯｾｰｼﾞ はありません" と表示されます。

自動表示機能

走行中に故障が起きたときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。

画面を切り替えるときは ▼ または ▲ を押します。

故障メッセージを確認する

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに表示されます。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"メンテナンス" を選択します。

故障件数が数字で表示されます。

▶ OK を押します。

▶ ▼ または ▲ を押して、故障メッセージ画面を順番に表示させます。すべて表示されると、故障表示画面に戻ります。

知　識

エンジンスイッチを**0**の位置にして、次にエンジンスイッチを**2**の位置にすると、故障メモリに記憶されたメッセージは消去されます。ただし、故障状況が変わらない場合は、再びメッセージが表示されます。

タイヤ空気圧警告システム画面

タイヤ空気圧警告システムを再起動することができます。

詳しくは**(8-18)**をご覧ください。

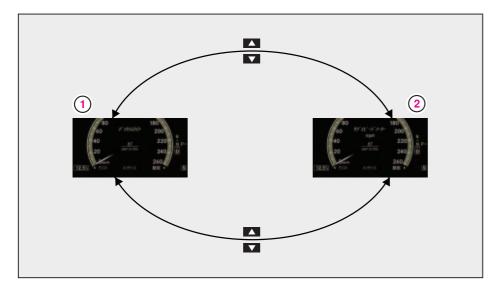
メンテナンスインジケーター画面

次回のメーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

詳しくは**(8-2)**をご覧ください。

設定メニュー

車の使用状況に合わせて車両の設定を変更することができます。

- ヘッドランプ点灯モード
- サブスピードメーター

①	ヘッドランプ点灯モード設定画面
②	サブスピードメーター設定画面

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定をすることができます。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"設定" を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、"ﾃﾞｲﾀｲﾑﾗｲﾄ" を選択します。

▶ OK を押します。

画面に"ﾃﾞｲﾀｲﾑﾗｲﾄ ｵﾌ OKﾎﾞﾀﾝでｵﾝ"と表示されます。

▶ 常時点灯モードに設定するときは、OK を押します。

▶ 常時点灯モードを解除するときは、再度 OK を押します。

表示	内　容
ｵﾌ	日本ではこのモードを選択してください。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。
ｵﾝ	エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。

注　意！

設定が常時点灯モード（オン）のときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

知　識

- 常時点灯モードは、走行中の昼間点灯が義務づけられている諸国に対応しています。日本では"ｵﾌ" に設定して使用してください。
- 常時点灯モード（オン）で自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。その他のランプを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

サブスピードメーター設定画面

スピードメーターの左下にマイル表示のサブスピードメーターを表示することができます。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、"設定"を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、"ｻﾌﾞｽﾋﾟｰﾄﾞﾒｰﾀｰ" を選択します。

▶ OK を押します。

"ｻﾌﾞｽﾋﾟｰﾄﾞﾒｰﾀｰmph ｵﾌ OKﾎﾞﾀﾝでｵﾝ" と表示されます。

① サブスピードメーター

▶ サブスピードメーターを表示させるときは、OK ボタンを押します。

▶ サブスピードメーターの表示を解除するときは、再度 OK を押します。

知　識

1マイル(mph)は約1.6km/hです。

表示	内　容
ｵﾝ	スピードメーターの左下にサブスピードメーターが表示されます。
ｵﾌ	スピードメーターの左下のサブスピードメーターの表示が消えます。

スイッチ類一覧

左ハンドル車